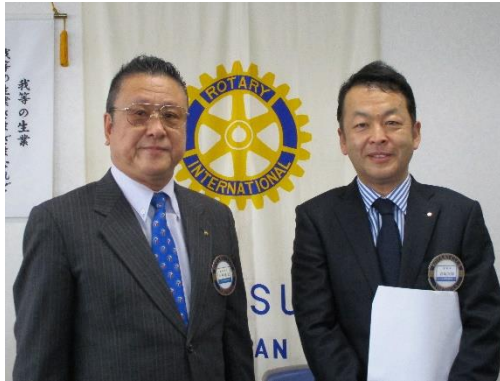


2018年4月27日 第3242回例会

於： 横須賀商工会議所

- <点鐘・開会> 12:30 小林 会長
<斉 唱> 「我等の生業」
<ゲスト紹介> *米山奨学生 金 聰 勅 様
<会 長 報 告> *新会員入会 岩 崎 次 郎 会 員



*第10回理事役員会 報告

*ガバナー事務所より

- ・2019-20年度ロータリー奨学生募集について
 - A) ロータリー奨学金 (グローバル補助金)
 - B) 第2780地区奨学金 (地区補助金)応募〆切 10月12日 (金)
- ・2019年夏出発 ロータリー青少年交換学生募集について
応募〆切 10月12日 (金)
- ・次年度会員増強・会員維持セミナー開催のご案内について
6月4日 (月) 15:30~17:30 於：アイクロス湘南

<委員長報告> *小山ローターアクト委員長よりRAC例会案内

<出席報告> *出席委員会 植田委員長より4月27日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出 席 数	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
115名	98名	66名	31名	3名	71.13%

<ニコニコ報告>

- ・江 沢、田 邊、齋藤 眞、飯 塚、前 川、佐久間 各会員
米山奨学生 金 聰勅様、ようこそお越しくございました。
- ・三 役 本日の地区研修・協議会報告よろしくお願ひいたします。
- ・小 平、波 島、井 莉、澤 田、薦 野、濱 田 各会員
地区研修・協議会報告の発表の皆様よろしくお願ひ致します。
- ・北 村、物 井 両会員 本日の地区研修・協議会で発表させていただきます。
- ・三 役 岩崎会員、入会おめでとうございます。ロータリーライフを楽しんでください。
- ・角 井、上 林、福 西、猿 丸、瀬 戸、鈴木 〆、岩 瀬、加藤 眞、大 竹、新倉 健、
齋藤 眞、澤 田、勝 間、若麻 績、植 田、野 坂、飯 塚、長 尾、藤 村、杵 淵、
鈴木 豊、根 岸、平 松、濱 田、長 坂、前 田、齋藤 眞、八 木 各会員
岩崎会員、入会おめでとうございます。一緒にロータリーライフを楽しみましょう。
- ・平 松 会員 念願であった岩崎次郎さんが会員になりました。皆様にはどうぞよろしくお付き合ひの程お願ひ致します。
- ・岩 崎 会員 本日より入会させていただきます。よろしくお願ひいたします。

- ・丸山 会員 なんとなく
- ・徳永 会員 写真をいただいて

<卓 話> 「第3回クラブ協議会」(地区研修・協議会報告)

1. 会長部門

北村 理和子

地区研修・協議会の報告をさせていただきます。開催日は4月8日、開催場所は神奈川県立保健福祉大学、ホストクラブは逗子ロータリークラブでありました。

全体会議では、大谷ガバナーより「次年度に向けて」というタイトルで、「本年度イアン・ライズリーR I会長テーマ『ロータリー：変化をもたらす』に則り、キーワード『変化』を行動に移し、最重要項目として会員増強を掲げました。クラブの活性化の力となり、奉仕の実践につながります。」とのご挨拶がありました。

分科会では、会長部門で勉強をさせていただきました。司会は、ガバナーノミニーの杉岡芳樹氏(相模原RC)、リーダーはガバナーの大谷新一郎氏(相模原南RC)でした。内容としては、「ロータリーの会員数は近年低迷しており、活動を通して変化をもたらす知識や意欲を持たないクラブが多すぎます。R I会長のテーマ『変化』を生み出す意欲を持ち、会員増強により、クラブの活性化・強固な財政基盤・奉仕活動の強力な推進と維持、以上のことが実現すればロータリアン一人ひとりへの『変化』、そしてクラブに『変化』を生み出すこととなります。」とのお話がありました。

次に、サブリーダーである脇洋一郎ガバナーエレクト(茅ヶ崎湘南RC)からは、会長の重要施策として、以下の実践が求められるとのお話がありました。

*クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)

*財団委員会を活用しているか

*地域社会のニーズに取り組みプロジェクトを実施しているか

*クラブ会員全員が積極的に関与している実感のある活動をしているか

*奉仕活動の継続性が保たれているか

その後、グループディスカッションでは、「クラブの活性化と会員増強」をテーマとして行われました。私が参加したグループでは、会員数100名以上から10名までというクラブ状況が多岐にわたるものでした。会員増強対策もさることながら、クラブの維持存続の問題やクラブの固着化をどう解決するかなど、問題は深刻でしたが、結論は会員増強することがすべての解決策であるということでした。

2. クラブ管理運営部門

江沢 暁彦

管理運営部門リーダーは、横須賀北RCの森さんでした。

R Iの立法機関である規定審議会(2016年)の主な変更点については、以下のとおりです。

- (1) 例会開催は月2回まで、柔軟性を持たせてもよい。
→ ただし、これについては、いまだ評価が十分でない
- (2) 職業分類は無職でもよい。
- (3) 入会金はクラブ細則でよい。人頭分担金は現状のままでよい。
- (4) 制定案は規定審議会の3分の2の賛成でよい。

なお、2019年の代表議員は、相澤PGと田中PGの予定です。

2018年から2019年のビジョンは、バリー・ラシンR I会長エレクトの「インスピレーションになるろう」で、ロータリアン各個人が勇気と希望と創造性ある変化をし、クラブ・地域・国際社会に持続的に変化をもたらそうと宣言されました。これについては、ロータリーの友2018年3月号を是非ご覧ください。また、今後は毎年シカゴに集まることなく、審議会をインターネットで行う方向であるとのことでした。

3. 公共イメージ部門

小山 陽生

公共イメージ部門に出席しました小山です。私は、地区のことがよくわからなかったので、「公共イメージ」とは何ぞやと思って参加したのですが、その二本柱は①公共イメージを高めることと、②エンド・ポリオです。

まず最初に、相澤PGよりポリオ撲滅について講義をしていただきました。ポリオとは、昔で言う小児まひのことだそうです。明治時代には、日本にも1000人～1500人の患者さんがいたとのことですが、日本政府が1961年にソビエト産のワクチンを輸入して、1988年に根絶宣言をしたそうです。

皆さんはご存知のことだと思いますが、私が驚いたことは、国際ロータリーで1979年から行われているポリオ撲滅運動のきっかけは、2人の日本人の活動から始まったということです。ひとり、日本人ロータリアンである山田つねさんと、もう一人は日本人医師の峯英二さんという方が主体となり、インドでのボランティア活動をする中でポリオ撲滅を決意し、国際ロータリーに協力を依頼して、それがエンド・ポリオの活動につながっていると聞きました。一人当たり2滴のワクチンでエンド・ポリオが達成できるという身近なものなので、もっともっと協力して早く実現できればいいなと感じました。

4. 会員増強・維持・R家族部門

長坂利広

4月8日(日)神奈川県立保険福祉大学において行われた地区研修協議会の報告をさせていただきます。小林会長と二人で参加してまいりました。リーダーの鎌倉RC、菅原光志会員の挨拶から始まり、サブリーダーである鎌倉RCの新井今日子会員、横須賀RCの加藤元章会員、ふじさわ湘南RCの松下力会員と会員増強について順次ご登壇いただきました。

菅原リーダーからは、「自分のクラブが基本、クラブが良いクラブになればよい。私達ロータリアンは、世界で地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が行動する世界を目指す。」と仰っていました。

新井サブリーダーからは、委員14名で2780地区の66クラブ中、40クラブへ訪問し会員増強の卓話を行ったとのことでした。

クラブ運営の活性化は増強、維持の恒常的な意識がクラブ全体に生じることであり、「会員増強・維持の必要性の共有」→「増強の意欲の高揚」→「ロータリー奉仕の精神の高まりと実現」と好循環が生じさせる必要があります。クラブ全体で会員全員で会員増強が継続される仕組みを作ることが重要です。

加藤会員からは、当クラブの会員数の変遷を、転勤や死亡など具体的な例をあげながらお話しいただきました。また、昨年横須賀RC良いところアンケートの活用や小林会長を指名され坊主覚悟の会長の本気度が大切である旨を話されていました。

松下サブリーダーからは、会員増強の捉え方として会員増強は手段であり目的ではないこと。何故、何のための会員増強なのか？会員増強によってクラブがどう変わるのか？

会員増強の目的、更にその先にある目的をクラブで共有することが大切である。

既存の奉仕活動の質を高めるには、このままでは限界であり新しい仲間が必要ではないか？新しい奉仕にチャレンジするにはその分野に精通した会員、経験した会員が必要である。そのためにも会員増強が必要。

質疑応答で印象的だったのは会員数が大幅に増えている海老名RCでした。例会を4回から2回にし、そのうち1回を夜間にしたこと。入会金をゼロ。トライアル例会に友人を連れてくるなど斬新さを感じました。

次年度は北村会長エレクト、江沢次年度副会長、齋藤幹事のもと頑張ってまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

5. 職業奉仕部門

齋藤真且

こんにちは。職業奉仕部門の報告をさせていただきます。

まず、リーダーである後藤PGよりRIテーマとそれに関わる職業奉仕についての概論を話していただきました。

次に、サブリーダーである瀧澤地区委員長が「職業に学び職業で奉仕する」という講話をクイズ形式で受講者を眠らせないようにして話されました。

2016年規定審議会改正により、職業奉仕には『内向き』と『外向き』があると規定されました。そのことにより、明確な活動指針ができました。

*内向きの職業奉仕

ロータリアン一人ひとりが奉仕活動の中で「奉仕の理念」を勉強し、それを自分の職場に持ち帰り、「奉仕の理念」や「四つのテスト」に照らして自らを律し、仕事を遂行する。

*外向きの職業奉仕

会員の職業上の手腕を、社会の問題に役立てるためのクラブの奉仕プロジェクトに活用する。

その中で、外向きのプロジェクトとして、「職業を語ろう」プロジェクトを各クラブで推進しようという提案がなされました。

その後、3グループに分かれてワークショップを行い、各クラブでの職業奉仕の現状を紹介し合いました。どこのクラブも、内容的に大差なかったのですが、サブリーダーの静止にもかかわらず、どなたもお話が止まらず、予定より5分以上遅く終了となりました。

6. 社会・国際奉仕部門

物井 宏 介

次年度国際奉仕委員長の植田会員とともに参加いたしました。基調講演と質疑応答の形式で、参加人数は70人ほどでした。

まず、佐野PGより、次年度RIテーマ「インスピレーションになろう」とは、「やる気を引き起こす人、鼓舞する人になる」意味だとの解説がありました。

次に、小野良太郎サブリーダーからは、END POLIO NOWで実際にインドで活動された報告がありました。意外だったのはワクチンの容器が非常に硬く、一日やっていると指先の感覚がなくなってしまうほどだったそうです。

質疑応答の時間には、「2020年オリンピックで江の島がヨットの会場になっているので、地元のロータリーとして何かできないか、海外との姉妹友好クラブの一覧表があればいい、財団学友が会長となっているミャンマーのマイクロクレジットに参加してはどうか」といった、多岐にわたる質問が寄せられました。

しかし、私が何より驚き、またうれしく思ったのは、浜田まり子サブリーダーによる植樹、児童へのランドセルカバーの寄付など様々な社会奉仕活動の紹介の中で、5年ほど前になりますが、当地区のロータリー代表だった福本星さん考案による防災トランプの紹介でした。遊びながら防災意識を高められるこのアイテムは、社会奉仕のみならず、英語版を使えば国際奉仕にもなる優れたものです。

興味のある人、欲しい人は、アマゾンドットコムで買えます。

同じ名前のあの方も、会談前に、防災トランプやってみたほうがいいのではないかな、と思いました。以上です。ありがとうございました。

7. 青少年奉仕部門

八 卷 敏 博

本日は、土田会員が仕事の都合でどうしても来られないということだったので、私が代理で発表させていただきます。

青少年部門は、リーダーの久保田英男ガバナーノミニー・デジグネート（鎌倉RC）による趣旨説明、サブリーダーの横山英夫次年度地区青少年奉仕委員長・インター・ロータリーアクト委員長（鎌倉RC）によるインターアクト・ロータリーアクト、同じくサブリーダーの石田隆・現次年度地区青少年交換委員長（逗子RC）による青少年交換プログラムについて、休憩をはさんで笠原又次年度危機管理委員長（藤沢北RC）による危機管理について、その後質疑応答という進行で行われました。

青少年奉仕は、ご存知のようにインターアクト、ロータリーアクト、青少年交換の3つのプログラムと、当地区では十数年開催していませんがLYLAによって構成されており、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援するプログラムです。また、OB/OGによる支援組織として、インターアクト学友会、ROTEXがあります。地区委員会としても彼らの活動で大変助かっています。

ロータリーアクトは4クラブ約40名、インターアクトは12クラブ約120名が活動しています。以上のクラブ数ですので、地区の中でも提唱していないクラブが多いというところが問題ではないかというお話でした。

青少年交換プログラムは、当地区では今年度、アメリカ、アメリカ/カナダ、カナダ、メキシコ、ブラジル、イタリア、フランス、ドイツ、ハンガリー、台湾の9つの国と地域へ9名を派遣し、同じ地区からは同じく9名を受け入れ、各グループ1名ずつホストをお願いしています。アメリカ/カナダというのは、近

年マルチ地区というものが青少年交換として増加しており、1つの地区ではなく複数の地区が対象になる事例が増えてきています。

青少年交換プログラムでは、過去に海外で虐待やハラスメントの問題があり、ロータリーが提訴されたことがあります。また、東日本大震災、熊本地震のときの課題から危機管理を強く認識する必要があり、当地区では、危機管理規定、危機管理連絡網、危機管理マニュアル等をまとめて各クラブに配布する予定となっています。

地区レベルでの青少年奉仕各プログラム合同行事を地区大会新世代交流会の他にも行っているとのことでした。

今後、インターアクターから青少年交換学生、インターアクターからローターアクター、ROTEXからローターアクター、ローターアクターからロータリアンという流れが出来れば会員増強の一助になるという感想を持ちました。

なお、本年12月2日にローターアクト年次大会が開催予定で、横須賀ローターアクトクラブがホストクラブとのことですので、皆様にご協力をお願いいたします。

8. R財団部門

徳永良輔

ロータリー財団委員長を仰せつかりました徳永でございます。研修会では、次年度地区委員長の田中賢三PGをリーダーとして勉強をさせていただきました。ロータリー財団とは、正式には国際ロータリーのロータリー財団のことです。「世界でよいことをしよう」という標語の下で、世界理解、親善、平和を達成するために活動しています。私たち横須賀RCでは、次年度ロータリー財団の活動として、次の寄付をお願いすることになります。

- ① 会員一人当たり 200ドル以上
- ② 恒久基金として1クラブ当たり 1000ドル以上
- ③ ポリオ撲滅のため 会員一人当たり 40ドル以上

田中リーダーからは、ロータリーが活動できるかできないかは財団の力にかかっている、お金集めをしつかりしなさいということを言われました。皆様方には、例年通りいろいろとご寄付をお願いいたしますが、その節はよろしく願いいたします。

私自身もかつてGSEで若い人間を4人引き連れて丸1か月ホームステイでアメリカに行ってお金を使わせていただきました。今後はお金を集める番になりますので、よろしく願いいたします。

9. 米山奨学部門

山田晴史

米山奨学部門に参加してきました山田です。米山奨学部門の研修会は、リーダーである竹内PG（秦野RC）が米山奨学会の本質について、4人のサブリーダーのうち、当クラブの佐久間現米山委員長が米山奨学の現況について、小田原北RCの柴崎次年度副委員長が米山奨学生のホストクラブ・カウンセラーの役割について、休憩をはさみ、秦野中RCの矢野次年度副委員長が米山奨学生への寄付について、箱根RCの澤田現副委員長で次年度委員長が米山学友の現況とフォローアップについて、それぞれ講義されました。

5名の講師の方たちは、佐久間委員長は当然のこと、他の4名の方たちも故渡辺PG年度に、何もわからず地区の副幹事で米山担当をさせていただいたので、懐かしい人たちがばかりで安心しました。

奨学金制度はさまざまありますが、ロータリークラブの奨学金制度は、経済的支援だけではなく、世話クラブ制度とカウンセラー制度があることが特色で、奨学生を終了すると米山学友となります。そして、その後の信頼関係及び活動を充実したものにするためには、奨学生の中の世話クラブ・カウンセラーの強い信頼関係が最も大切であるとお話でした。

次年度は、米山学友のさらなる活発化も視野に入れ、活動をしていくとのことでした。

次年度、米山奨学委員長を仰せつかりました山田としましては、飯塚カウンセラーのご指導の下で、大竹副委員長・大先輩の村瀬会員・石田会員のお力をお借りし、充実した一年を過ごせるよう頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。

10. 研修部門（R情報を含む）

田邊一三

研修部門に参加させていただきました田邊です。研修部門では、リーダーである小佐野PGによる基調スピーチがありました。如何にして研修制度ができたのかのお話、そして各クラブにより情報委員会、研修委員会と呼ぶクラブがあること、研修委員にとって大切なことは、自クラブを会長・幹事と共にどのような方向にもっていくのかを考え実行することであるとお話がありました。

次に、「クラブにおける研修リーダーの役割」について小川忠久サブリーダーより、「クラブへの戦略計画の導入」について佐藤祐一郎サブリーダーより、「人道的奉仕の重点化と増加の観点から Polio Free India の現状」(第2780地区ポリオ撲滅行動グループ活動報告)について田島透サブリーダーより、それぞれお話がありました。

また、脇次年度ガバナーより、「2018-2019年度 第2780地区方針」が書面により提示されました。

最後に質疑応答があり、非常に有意義で今後の参考になる時間でした。ありがとうございました。

11. 新会員部門

角井 駿 輔

私からは、新会員部門についてご報告いたします。当クラブからは、私以外に臼井会員とエノーラ会員が参加されました。

分科会では、初めにリーダーである加藤盛久地区研修委員会副委員長より、「ロータリーとは～三大義務を中心に～」をテーマとした基調スピーチがありました。ロータリーの三大義務とは、「例会の出席」「会費の納入」「ロータリー雑誌の購入」ですが、憲法における国民の義務(いわゆる「勤労の義務」「納税の義務」「教育を受けさせる義務」)にそれぞれ対応しているという説明に思わず「なるほど」と心の中でつぶやいた私でございます。

次に、サブリーダーである高田喜好地区研修委員会委員よりロータリー用語に関するお話があり、「GE」「GN」「PG」「AG」といった略語についてクイズ形式で説明されました。その中でも「GND」は難問でした。正解は、「ガバナーノミニージェグネート」で、日本語では「次々次年度ガバナー」のことです。「デジグネート」とは、「指名された」という意味で、野球における「DH制」は、「デジグネート・ヒッター(指名打者)」の略語です。これがこの日一番頭を使った瞬間です。

続いて、サブリーダーである神谷一博第9グループガバナー補佐より、ポリオ撲滅運動について、実際にインドで行われたワクチン投与活動のご経験をお話いただきました。その際、「5歳以下の子供にワクチンを接種すると一生免疫が続くことから、いますぐ『行動』することが大切である。」と熱意をもってお話をされました。

最後に、サブリーダーである宮本清志第1グループガバナー補佐より、ロータリーの経験談として、入会当初のロータリークラブの様子や現在務めていらっしゃるガバナー補佐のご経験についてお話をいただきました。その際は、先ほどお話をされた神谷一博第9グループガバナー補佐とガバナー補佐という職務を通じて交友を深め、今後一生の付き合いになると思っているというお話があり、ロータリー活動における「親睦」のすばらしさを実感しました。ご清聴ありがとうございました。

12. 幹事部門

齋藤 秀 人

私は、幹事部門ということでクラブ運営に関する内容の濃い研修をさせていただきました。本当にありがとうございました。

特に2016年に規定審議会による規定の変更がありましたが、この規定の変更とは、3年に一度規定の変更があるということで、例会の頻度であったり形式であったり、出席における柔軟性について話がありました。これは、ロータリークラブによる例会の開催方法に関する制限を軽減すること、クラブの健全性は出席率だけで判断されるものではないという認識であります。

しかし、この中でいくつか問題点が発生しているということでもあります。それは、「月に最低2回、何らかの形で例会を開催する」「例会頻度を減らすことができる」という規定によって、実際に月2回の例会にしたクラブもあるとのことですが、出席義務をなくしてしまったクラブや例会をすべて夜間例会に変更してしまったクラブもあるということです。特に出席義務に関しましては、ロータリーの三大義務のうち「例会の出席」に抵触します。

クラブ幹事の責務の中には、「地区研修・協議会に出席する」「クラブの次期メンバーと密に連絡を取る」「クラブ情報・会員情報をクラブセントラル・マイロータリーに登録する」といった様々なものがありますが、特にマイロータリーにつきましては、横須賀RCもすでにアカウントを取得して動いておりますが、全体的に使用率が非常に低いということで積極的にクラブの情報を更新していただきたいとお話でした。

次年度に向けて被選理事会を4回程開催させていただきましたが、北村会長エレクト、江沢次年度副会長と協調して、一生懸命頑張ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<閉会・点鐘> 13:30 小林 会長

週報担当 角 井 駿 輔